

調査・実践報告

中国甘肅省岷県花儿会調査報告2010・2011年

— 二郎山子孫殿における神花儿 —

Investigation Report of Taomin Hua'er, 2010・2011

板垣俊一* 戚曉萍** 張蠡***

ITAGAKI Shun'ichi, QĪ Xiǎo Píng and ZHĀNG Lǐ

In this report, we investigated the songs and ballads sung by Chinese people in June, 2010 and June, 2011 in Minxian, located in the southern part of Gansu in China. This report compiled the text of the lyrics which we obtained in the investigation. The songs and ballads collected for this investigation were performed in front of a mausoleum. Findings from the folkloric analysis were of great interest.

キーワード：神花儿、洮岷花儿、Taomin Hua'er、歌垣、対歌

1 調査概要

甘肅省南部岷県の聖山二郎山における旧暦5月15～17日の祭礼日には、昔からの慣例として、神廟に参詣する善男善女が信仰に関する歌謡を歌う。また山の斜面では多くの群集が集まり花儿会と称して男女掛け合いの恋歌をかわす。その愛情の歌に対して、神廟で歌われる信仰に関する歌謡を〈神花儿〉と呼ぶ。

この報告書では、2010年と2011年の祭礼に、二郎山の中腹にある子孫殿で歌われた神花儿のうちの二編を録音し、文字資料化した。2010年6月調査時の資料が洮岷「神花儿」A、2011年6月調査時の資料が洮岷「神花儿」Bである。いずれも子孫殿の庇の下において比較的年配の男女が歌ったものである。

前回の報告書で述べたとおり、二郎山には仏教、ラマ教、道教の各寺院があり、神仏混淆の聖地となっている。子孫殿は中腹の比較的低い場所の平坦な地にある建物で、観音殿と隣り合っている。この境内でよく歌われているのは神花儿と宝卷である。神花儿と一緒に歌われる民衆の口承文芸である宝

* 新潟県立大学国際地域学部 (sitagaki@unii.ac.jp)

** 甘肅省社会科学院文化研究所

*** 西安外国語大学東方言語文化学院

巻の演唱も盛んであり、今後これについての調査も必要だと考えている。

なお、「神花儿」Bの歌詞には千人万人が集っているとあるが、現在は参詣客がかなり減っていて、かつての調査報告に見られるような賑わいとは比べられない。時代の趨勢とは思うが少し寂しく感じられる。地元自治体は、二郎山を観光地として売り込むことで、かつての賑わいを取り戻そうと、十八湫神の御旅所をはじめ現在幾つかの建物群を建設中である(写真C)。

2 歌詞小考

(1) 神花儿A これは2010年6月に採録した対歌形式で歌われた歌詞の一例である。この歌詞資料は対歌の内容としてはあまりみるべきものがないが、現地での演唱の実態を知る資料として、あえて歌詞以外に歌手が発声した襯詞・襯句(衬詞・衬句)を可能なかぎり文字化した。これまでの取材資料は一般に右欄のように、有意味な歌詞だけを抽出して掲げてあるので、そうした文字資料からは、歌手があたかも漢詩を読み上げているかのような印象を持つおそれがある。しかし実際の演唱では有意味な歌詞のほかにも多くの襯詞を発声し、また襯句を挿入して歌っているのである。ここに記載した襯詞のほかにも、歌詞の途中には日本の民謡で言えばエーとかヨーといった発声を随所に入れて声調を整えている。たとえば日本の民謡、

ハイヤー エー 沖の瀬の瀬に どんと打つ波はエー あれは船頭さんの
度胸さだめヤー (牛深はいや節)

の歌詞中の、ハイヤー、エー、ヤーなどがそれにあたる。しかも歌い出しの「ハイヤー」によって「はいや節」と呼ばれているのと同じく、洮岷花儿のばあいも「哎—噢—」の歌い出しによって「阿欧怜」と呼ばれている。

神花儿Aの歌手は男女ふたりであるが、いずれも円座になって腰掛けている老年女性たちに向かって歌いかけているので、歌手当人たちの歌詞は内容的には最後までかみ合わず、すれ違ったままである。しかし、歌詞の内容面からは次の諸点を知ることができる。

1. 仏教信仰と道教的な信仰(子孫殿の女神信仰)とがほとんど区別無く融合していること。
2. この地には霊山会といった信者組織があること。
3. 現世の利益がかなえられたとき、神像・仏像の顔を洗い化粧直しをする「打臉」という儀式があること。
4. 対歌を始める前には相手をさがす歌がうたわれること。(この資料では

女性の誘い歌が挑発的にうたわれている。)

5. 神花儿では神仏信仰に関する内容が歌の中心となっていること。
6. 男性の歌詞の随所にその場にいる人々が遠くから来たことを歌っているように、神花儿でも面識のない人々の間で対歌が行なわれること。

(2) 神花儿B 次に、2011年6月に採録した神花儿Bは、一人の中年女性が子孫殿の前で独唱した歌詞の例である。岷県地域に暮らす民衆の二郎山に寄せる信仰心がよく表れているきわめて貴重な内容となっている。演唱歌詞には襯句がなく、翻字はしていないが、襯詞もまた少ない。内容面での特徴を大まかに言えば、神仏を称え、自己の信仰を告白する歌である。

まず歌手は、自分が二郎山に参詣に来たのは、子孫殿の女神が自分をここへ連れてきたからだと言う。女神は、神花儿Aにある「後ろ楯の神様」といったところだが、さらに彼女は「女神様の使者」を自任し、神の巡行は自分の行為と重ねられ、あたかも神に憑依された状態として歌う。資料：洮岷「神花儿」Bの「情況」にも述べたが、取材に対して彼女はこう言った。自分に神が乗り移って、はやく二郎山へ行けと告げた。とても気持ちが悪くなって家に居られなくなったので、今日ここへやってきたのだ、と。歌詞には、天空を飛翔して神とともに巡行し、天界から下界へ降臨する幻想も歌われている。

歌詞によれば、彼女が「女神様の使者」となってからすでに十六年が経っている。この地のシャーマニズムの存在については管見に入らないし、彼女も平生巫女的な活動はしていないようである。ただ、彼女が巫病にかかったことは確かである。そこには生活の苦しさから抜け出たいという切実な思いがあった。

神花儿Bに歌われる女神は子孫殿の祭神である。その名は「子孫娘々」とか「送子娘々」と呼ばれている。祭礼ではかつて山の中腹の聖地へ登ってくる神々の神輿の順序について、まず先頭が観音菩薩、そしてその次が九天仙女の御輿だと言う。十八の湫神たちがそれに続く。最初の二柱は、それぞれ中腹に社殿を持つ観音と子孫殿の女神と思われることから、九天仙女とはその女神のさらなる別名であろう。岷県地方では観音信仰が厚く、それは水と大きく関連している。神花儿Bの歌詞に「観音様が見ていなくても、私は楊柳の枝を挙げて(水を撒こうとする)、私は浄水瓶の水をあたり一面に撒く」という部分がある。ここから、その観音は薬王観音とも呼ばれる楊柳観音であることが知れる。楊柳観音が持っている花瓶は、岷県では土地の神々が持

つ「浄水瓶」となり、作物の成長を促す恵みの水を入れた容器となっている。子孫殿の女神もまた浄水瓶を持って巡行し、その水を撒くことで作物を稔らせ、人々に平安をもたらす神として信仰されているのである。

付記 別稿に述べたように、岷県には十八柱の水の神（湫神）が分布している。われわれはこれについての調査も継続する予定であるが、今回の調査で気の付いたことを一点報告しておきたい。

十八神の性別が男神10柱、女神8柱とほぼ相半ばしていることから、これらに夫婦神となっている例があるのではないかという疑問をもった。そこで調査協力者の戚曉萍にお願いして、彼女の師でもありまた長年にわたって花儿の研究を続けてきた李璘氏に尋ねてもらったところ、各女神には伴侶としての男神が存在することが分かった。それぞれ次の通りである。

女神	男神
分巡聖母	—— 忠簡公 南川大爺
金火聖母	—— 漢代忠良 梅川大爺
珍珠聖母	—— 漢室佑鳳 関里二爺
透山娘娘	—— 唐代忠良 涂朱爺
乃慈聖母	} 金竜大王
金花聖母	
鉄絲娘娘	
鬪牛宮主	(毀されてしまった。)

毀されてしまったという鬪牛宮主の場合も、おそらくその夫神となる男神が存在したと推定される。女神よりも数が多い男神の場合は当然独身者が存在することになるが、さらに金竜大王のみは三女神と伴侶の関係にあって、その廟内には現在、乃慈聖母・金花聖母・鉄絲娘娘が同時に祀られているということから、妻神を持つ男神は限られていることになる。このうち忠簡公（南川大爺）、漢代忠良（梅川大爺）、漢室佑鳳（関里二爺）は十八湫神のなかで勢力の強い上位三神であるから妻帯もうなずけるが、唐代忠良（涂朱爺）と金竜大王は男神の最下位に位置する神である。このことを含めて、なぜ夫婦神の形式をとるのかといった問題については、さらに調査する必要がある。

資料：洮岷「神花儿」A

月 日：2010年6月28日（旧暦5月17日）

場 所：甘肃省岷県二郎山の子孫殿

歌い手：老年男性、中年女性

情 況：70歳ぐらいの老年の女性たち十数人がほぼ円座になって腰掛けていた。そこに歌い手の老年の男性が加わって花儿を歌い掛けていた（歌詞資料の前半部分）。男4では、立っていた男性歌手に女性の一人が椅子を貸したので、それを歌詞に反映させている。花儿ではその場の出来事が歌詞に取り入れられるのが常である。男性の歌の間にごくたまに円座の女性たちの一人が歌を挟んでいた（男5と男6の間、また男6と男7の間）が、これは聞き取れなかったので割愛した。次に、途中で中年の女性がやってきて円座の人々に向かって歌掛けを始めた（女10以降）。彼女の歌い始めは河州花儿の節であった。歌の途中で爆竹が鳴ったり、携帯電話が鳴る点はこの音源でも他と同様である。

資料の男1から女35までの演唱時間は23分ほどであった。

凡例

1. 左の欄には現地の方言で実際に歌った歌詞を採録し、特に普通語と発音や意味が異なる文字には傍点を打ってその拼音と意味を注記した。
2. 左の欄の斜体文字は衬句および衬詞である。すなわち「明白的把式听啊」などは衬句、「叫弟子」などは衬詞にあたる。（衬句・衬詞については拙稿「中国甘肃省岷県花儿会調査報告2010年」『国際地域研究論集』第2号、2011）に述べた。）また、「哎，噢，」といった語は意味のない歌い出しの発声である。
3. 右の欄には詩句として意味のある部分を抜き出し、日本語訳を加えた。ただし、衬句また衬詞の一部分の訳も（ ）に入れて加えた。



写真A 平日の子孫殿 (2008.07.21)



写真B 男性の歌に聴き入る女性たち 子孫殿の向かって右隅 (2010.06.28)

(現地発声歌詞表記)	(漢語普通語表記詩句及び日本語訳)
<p>男1: 你们一家老小都好着啦, 哎一, 噢一一, 明白的把式听啊, 好了咱们就搭话。 *白: bei *把: bà</p>	<p>男1: 你们一家老小都好着啦, 好了咱们就搭话。 家族の皆さんはお元気ですか。(花児がわかる人聞いてくれよ。)準備ができたなら歌の掛け合いを始めましょう。</p>
<p>男2: 哎一一, 叫弟子, 娘娘庙里一颗印, 一年一个五月会, 哎一, 噢一一, 会, 一敬神来二为着你来, 噢。 *颗印: 因为(原因)。 *五: wù。</p>	<p>男2: 娘娘庙里一颗印, 一年一个五月会, 一敬神来二来为。 女神様⁽¹⁾はお墨付きをもらっている。毎年五月の縁日には、靈廟に参詣して花児会に参加するために、私は必ずここへやって来る。</p>
<p>男3: 哎一, 噢一, 远乡的朋友弟子们, 斧头剁了水白杨, 哎一, 噢一, 远路的娃娘娘, 你不叫我站出来呀还叫我坐下唱, 哎一, 噢一, 明白的麻利人, 站下连坐下都一样。 *水: shuǐ *下: ha *连: 和, 如同。</p>	<p>男3: 斧头剁了水白杨, 你不叫我站出来呀还叫我坐下唱, 站下连坐下都一样。 (遠くからいらした友達、弟子の皆さん。)斧で水白楊⁽²⁾を切る。(遠くからいらしたお婆さん。)立たないで座ったまま歌わせてくれるかね。(てきぱきとして物分りのいい人。)立っても座っても同じことさ。</p>
<p>男4: 哎一, 剪子铰了纸一张, 远路上的娃娘娘好心肠, 你阿么把你的那板凳儿我坐上。 *板: bàn *凳: tòng</p>	<p>男4: 剪子铰了纸一张, 娃家娘娘好心肠, 把你板凳儿我坐上。 剪刀で紙を切る。(遠くからいらした)お婆さんは心がやさしい。自分の腰掛けを貸してくれた。</p>
<p>男5: 哎一一, 远乡怜儿, 一对黄莺落草间, 我把那人人不牵把你牵, 晚晚阴魂儿到你前。 *牵: 牵挂。</p>	<p>男5: 一对黄莺落草间, 人人不牵把你牵, 晚晚阴魂儿到你前。 (遠くからいらした人よ。)一對のうぐいすがくさむらに舞い降りてきた。気がかりな人は貴女しかいない。私の魂は毎晩貴女に会いに行く。</p>
<p>男6: 哎, 远弟子, 镢头儿挖了苜蓝了, 我到佛家的门上三十多年了, 你看我的那工龄也长了。 *苜蓝: qiè lián 了: lao (携帯電話の通話のため1分以上中断)</p>	<p>男6: 镢头儿挖了苜蓝了, 我到佛家门上三十多年了, 我的工龄也长了。 鍬で苜藍⁽³⁾を掘る。仏教徒になって30年あまり経った。ご存じのとおり勤続年数が長い。</p>
<p>男7: 哎一一一, 老志同⁽⁴⁾, 斧头剁了水白杨, 你看我阿么可唱你不唱, 哎一一, 老联手, 你把我瞧不起么看不上。 *志: zì *老志同: 即老同志。 *上: ràng。</p>	<p>男7: 斧头剁了水白杨, 我阿么可唱你不唱, 你把我瞧不起么看不上。 斧で水白楊を切る。私だけが歌いまくっている。あなたはなんで唱和してくれないの。(古い友達、)貴女は私を相手にしてくれない。</p>

<p>男8:</p>	<p>男8: (編者注: この部分は近くで鳴らされた爆竹の音で音声確認ができない。)</p>
<p>男9: 哎一一, 弟子们, 三根椽椽儿搭架呢, 两个把式就站着我的两下呢, 叫我连阿一个把式搭话呢。</p>	<p>男9: 三根椽椽儿搭架呢, 两个站着两下呢, 我连阿一个把式搭话呢。 三本の垂木が椽を組み立てる。二人は二ヶ所に立っているが、どっちと掛け合ったらいいものか。</p>
<p>女10: (河州花儿)⁽⁵⁾ 哎一哟一, 蜡架的前面, 给你就可要着补一个呢, 你把那佛家的弟子你再看走你不开恩来。</p>	<p>女10: 蜡架的前面, 给你就可要着补一个呢, 你把那佛家的弟子你再看走你不开恩来。 神様に供える蠟燭立ての前で、貴方と歌の掛け合いをするから、しばらく歌で付き合ってくれよ。なんで黙ってしまったの。</p>
<p>女11: 大红洋缎银红绸, 你入着佛家伙儿里坐。 *佛家伙儿里: 指信徒群体。</p>	<p>女11: 大红洋缎银红绸, 你在佛家伙儿里坐。 真っ赤な緞子、明るい朱色の絹。あなたは仏教信者の中に交じって座っている。</p>
<p>女12: 佛家后头就有神, 你把话讲来讲明。 *讲: jiàng</p>	<p>女12: 佛家后头就有神, 你把话讲来讲明。 私たち仏教信者には後ろ楯の神様がいます。貴方はどういいう話を歌うかははっきり言え。</p>
<p>女13: 这个话要讲明呢, 各位弟子都有神耶呢噢。 有神呢噢, 你寻你们真人呢噢。 *寻: xún。*真: zhènɡ。</p>	<p>女13: 这个话要讲明呢, 各位弟子有神呢, 你寻你们真人呢。 そうよ、はっきり言いなさい。弟子の皆には後ろ楯の神様がいますのよ。(後ろ楯の神様がいますのよ。)貴方は後ろ楯の神様を探せ。</p>
<p>女14: 你在花儿的会场盘, 你就灵山会上没名唤。 没名唤, 叫你上山可不上山。 *灵: lín,</p>	<p>女14: 你在花儿会场盘, 你到灵山会上没名唤。叫你上山可不上山。 貴方はよく花児会の会場で歌うから、名前がよく知られているかもしれないけど、靈山会⁽⁶⁾ではまだ無名だよ。(無名だよ。)靈山会に加入するように勧めたけど貴方はそうしない。</p>
<p>女15: 我渡你回是好心肠, 我叫你走着好路上哎。 *是: sì *回是, 意即就是。</p>	<p>女15: 我渡你回是好心肠, 叫你走着好路上。 私は親切なつもりで正しい道を勧めた。</p>
<p>女16: 你瞭我们佛家的路就这么宽, 越走路路儿就越愿欢。</p>	<p>女16: 佛家的路就这么宽, 越走路路儿就越愿欢。 仏教を信じる人の道はこんなに広い、歩けば歩くほど報われる。</p>
<p>女17: 我们灵山的姊妹这么多, 观音的菩萨笑呵呵。</p>	<p>女17: 灵山姊妹这么多, 观音菩萨笑呵呵。 靈山の姉妹はこんなに多い。観音菩薩はにこにこ笑っている。</p>

女18: 观音的菩萨瞭得大, 保了弟子保天下。 保天下, 只要世间的人平下。 *天: qin。	女18: 观音菩萨瞭得大, 保了弟子保天下, 只要 世间的人平下。 観音菩薩は広い範囲を見守っている。弟子だけでなく 天下を守っている。(天下を守っている。)世間の皆 が平安であるように。
女19: 哎一, 噢一, 我叫姊妹, 为啥我给你唱来你不对。	女19: 我给你唱来你不对。 (姉妹のあなた,) 私と歌の掛け合いをしようとし ないのよね。
女20: 你把尕尕怜儿你对不来, 我就一心给你唱得美。	女20: 你把怜儿对不来, 一心给你唱得美。 貴方は花兒の掛け合いがうまくできないから、私が思 う存分に歌ってあげる。
女21: 你瞭唱着声是连一声, 霎叫给佛家志同把人丢了。 *丢: 指丢人。	女21: 唱着声连一声, 霎给佛家志同把人丢 ⁽⁷⁾ 了。 (私は) ひっきりなしに歌っている。(貴方は) 仏教 信者同志の前で名折れにならないように。
男22: 哎一, 噢一一, 众弟子, 我把条帚扎了四十把, 我先到那菩萨的铺里擦。 *菩萨的铺里: 指菩萨殿。	男22: 条帚扎了四十把, 先到菩萨铺里擦。 (弟子の皆さん,) 私は帚を40本も作った。まず菩薩 の堂内を掃除する。
男23: 哎一一, 远怜儿客, 我把唱花儿把式屋里的路认下。 *客: kèi	男23: 先把杨家店号下, 把把式屋里的路认下。 (遠くからいらしたお客さん,) 私は取り敢えず楊家 店 ⁽⁸⁾ を予約しておく、花兒を歌う(あなた)の家へ行 く道を覚える。
女24: 哎一一, 叫阿婆, 二细的草帽儿十八盘, 十八盘, 我问你草帽儿多少钱。 *草: cào	女24: 二细的草帽儿十八盘, 我问你草帽儿多少 钱。 おばあさん、二細の麦藁帽子は十八渦巻いている。麦 藁帽子はいくらなの。
男25: 哎一, 噢一一, 远乡亲, 娘娘庙里一盆香, 哎一, 噢一一, 远把式, 你们霎去霎去慢慢儿唱, 我一个把你们都惹上。	男25: 娘娘庙里一盆香, 你们霎去霎去慢慢儿 唱, 我一个把你们都惹上。 (遠くからいらしたみなさん,) 女神様の廟にはお盆 一ぱいの線香。(遠くからいらした花兒歌手たち,) あなたたちは行かないでゆっくり歌おうよ。一人一人 に歌の掛け合いをしてあげるから。
女26: 剪子铰了黄表了, 我们到神前越唱越好了, 叫你把我们干扰了。 *黄表: 指用来敬神、祭奠用的 黄纸。 *神家: 指供菩萨的佛堂前。	女26: 剪子铰了黄表了, 我们到神前越唱越好 了, 叫你把我们干扰了。 ハサミは黄表 ⁽⁹⁾ を切る。私たちは神殿の前で気持よく 歌っているところをあなたに邪魔された。

女27: 哎一一, 我把花花衬衣穿上呢, 你还说我这会儿家把你收 *拾呢。收拾: 意即惩罚。	女27: 花花衬衣穿上呢, 这会儿家把你收拾呢。 私は花柄のシャツを着ている。こらしめてやろう か ⁽¹⁰⁾ 。
女28: 收拾呢, 不是把你收拾, 你为啥坐下不开呢。 *开: 省略语, 意即不开口、不答话。	女28: 不是把你收拾, 你为啥坐下不开呢。 貴方がそうでなかったら懲らしめることはしないよ。 なんで座っているだけで口を開けようとしなの。
男29: 哎一, 噢一一, 远亲戚, 佛爷坐下轿着呢, 佛家弟子脸上皱皱儿吊着呢, 我唱起稀不爱着呢。 *皱: chù, *皱皱儿: 皱纹。	男29: 佛爷坐下轿着呢, 弟子皱皱儿吊着呢, 唱 起稀不爱着呢。 (遠くからいらした皆さん) 仏様は駕籠に乗ってい る。弟子(の私)は顔がしわだらけだけど、花兒を好 んで歌っている。
女30: 剪子铰了绸缎了, 我们弟子越盘越爱了, 弟子越盘越官大, 一盆打脸一边画。 *打脸: 指给神像洗脸的仪式。	女30: 剪子铰了绸缎了, 弟子越盘越爱了, 弟子 越盘越官大, 一盆打脸 ⁽¹¹⁾ 一边画。 ハサミが絹織物を切る。弟子は付き合えば付き合うほ ど仲良くなり、出世して偉くなった。だから(お札 に) 神像の顔を洗って色を付け直す。
女31: 一边画, 把蒲团儿拉开就都打卦。 *都: dōu *打: dà	女31: 把蒲团儿拉开都打卦。 (色を付け直す。) 座布団をとってお経を読む。
女32: 把你一声来我一声, 我两个唱得石山就落一层噢。	女32: 你一声来我一声, 唱得石山落一层。 あなたが歌えば私も歌う。そうすれば、二人の間の山 が一層ずつ崩れてゆくように、お互いの距離が近くな る。
男33: 我说楞坎沿儿上石纸刺, 把式们唱上来么补上去, 远路上的亲戚细细儿听, 万事霎叫长出气。 *纸: zǐ, *石纸: 一种植物名。	男33: 楞坎沿儿上石纸刺, 把式们唱来补上去, 远路上的亲戚细细儿听, 万事霎叫长出气。 田畑の周りの土手と畦に生えている石紙の刺。歌手た ちが歌で相呼応している。遠くからいらした皆さん、 よく聞いてくれ。どんなことがあっても溜め息なんか つくな。
女34: 楞坎有个石匣呢, 路径远者谁拿呢。	女34: 楞坎有个石匣呢, 路径远者谁拿呢。 田畑の畦に蓋つきの石の箱があるが、道のりの遠い人 は持ち帰るものか。
女35: 岷县的药是串串儿货, 不是药是兑不过。 *药: yuè, 指当归。 *兑: 指把当归切片加工后出售换 成钱。	女35: 岷县药是串串儿货 ⁽¹²⁾ , 不是药是兑不过。 岷県の漢方薬である当帰は加工して売る。そうしない と高く売れないからさ。

※現地録音からの文字化は威 曉萍が担当した。また、日本語訳は張 蠡が担当し、
板垣がさらに検討して修正した。

資料：洮岷「神花儿」B

月 日：2011年6月17日 (旧暦5月16日)

場 所：甘肃省岷县二郎山の子孫殿

歌い手：近くの農村から参詣に来た50歳の女性

情 況：歌い手は、家にいたとき神が乗り移ってはやく二郎山へ行けと言ったので参詣に来たという。また、気持ちが悪くて家にいることができなかつたともいっていた。連れはなく一人でやってきた。その彼女が、子孫殿の建物入口の庇の下で独唱した。彼女自身が歌で自分の状況を語っている。周りには例によって彼女の花儿に耳を傾ける老女たちが多くいた。また今回は、よく宝巻を歌う老女たちが数人いた。このときの神花儿の演唱時間は15分ほどであった。



写真C 二郎山北側斜面(2011.06.20)
(中腹と山頂に見える建物は最近の建造物。子孫殿は他の建物の陰で見えない。写真下部のビルディングは岷州市街の建物。)



写真D 子孫殿の女神(2011.06.17)

凡例

1. 左の欄には歌詞を採録し、右の欄には日本語訳を掲げた。聯（続けて歌う歌詞のひとつまとまり）には便宜上通し番号を付した。
2. 音声資料の文字化は戚 曉萍が担当し、日本語訳は張 蠡が担当した。日本語表現の推敲と全体の編集は板垣俊一が担当した。
3. この歌い手は花儿の終わりのほうで宝巻も歌っているが、これは割愛した。
4. 歌の節は阿欧怜儿である。

(採録歌詞漢語普通語表記)	(日本語訳)
1. 二郎山の子孫殿, 菩薩娘娘是大佛家, 保佑叫万人转会都来下, 把黄蜡就给庙里架。	1. 二郎山の上にある子孫殿、 その中に祭る女神 ⁽¹⁾ はすごい神様だ、 靈験あらたかなのでたくさんの人が花儿会が てらお参りに来て、黄色い蠟燭 ⁽²⁾ を供える。
2. 黄蜡架在庙里墙上呢, 我们千千万万的人把会浪着呢, 娘娘今几个把弟子带上唱着呢。	2. 黄色い蠟燭は廟内の壁に供えてある、 われわれ千万人ものが花儿会を楽しんでいる、 今日は女神様が弟子の私を連れて花儿を歌って いる。
3. 带上唱是我高兴, 弟子心上有心病。	3. 女神様が連れて来てくれたからとても嬉しい、 弟子の私には心の悩みがある。
4. 我的心病我难寒, 我把天云当佛爷。	4. 私の悩みは生活が苦しいこと、 私は空の雲を仏様と見なす ⁽³⁾ 。
5. 娘娘浪是浪天下, 我抱杨柳瓶水转天下。	5. 女神様は天下の至る所をめぐり歩く、 私は浄水瓶 ⁽⁴⁾ を持って天下を歩き回る。
6. 娘娘占下弟子孽障大, 娘娘把心劲打上不害怕, 哪个恶人把我吓。	6. 女神様に使者として選ばれた弟子の私はい ろいろと苦勞するけれど、力一杯守ってくれ るから何も怖いことはない、私を脅かす悪者 はいない。
7. 我到二郎山の子孫殿, 我拿起心劲逛会转, 千人万人把我见。	7. 私は二郎山の子孫殿にやってきた、 私は興味津津に花儿会をぶらついている、 たくさんの人が私を見ている。
8. 我把杨柳抬起观音看不见, 我把杨柳瓶水甩一转, 把四路庄稼长安全。	8. 観音様が見ていなくても、私は楊柳の枝 ⁽⁵⁾ を挙げて(水を撒こうとする)、私は浄水瓶 の水をあたり一面に撒く、あらゆる作物がよく 育つ。
9. 把庄稼长得安全长得好, 把后辈儿孙保护好。	9. 作物がよく育ち、よく実る、 次世代の子孫をよく守る。
10. 娘娘保护天下转, 把大大的路就都修完, 大大路路修完修得大来修得好, 后辈儿孙把车开上跑。	10. 女神様は天下を守って各地をめぐり歩く、 広い道の舗装を順調に完成させることができる、 道が広くて綺麗にできたら、 子孫たちはその上で車を走らせる。
11. 把路人保佑平安好, 后辈儿孙孝心好。	11. 道行く人々の安全を守る、 子孫に親孝行の心を持たせる。
12. 黄蜡架在画画の庙, 把平安就问娘娘要。	12. 絵を画いた廟に黄色い蠟燭が供えてある、 平安を守ってくれるよう女神様に祈る。
13. 娘娘要来好的话, 还要给娘娘插香黄蜡架。	13. 女神様がよく守ってくれたら、 (お礼に) また女神様にお香と黄色い蠟燭を供 える。

14. 架起黄蜡插上香,
南天门上往下降。
15. 降者南天门开下,
把千人万人保佑挂。
16. 娘娘给你好人唱,
弟子的心上难寒过。
17. 弟子的心上难寒挂,
后头了你就慢慢地查。
18. 我的心牵不下,
叫娘娘把事情重提下。
19. 把南天门上的人问一挂,
我的任务都平安,
娘娘的银钱给善人都平摊,
娘娘保佑就平安。
20. 我到天空为你转天下,
云头脑里把你挂,
大陆路儿平安大,
尕大庄稼齐收下。
21. 收下庄稼路有的人吃饭呢,
黄蜡拿来香点呢。
22. 人儿群里保护下,
人人把啥当蜡架。
23. 娘娘架蜡真好看,
把四路的庄稼齐保下。
24. 牡丹插在善人的门,
保佑叫善人好活人。
25. 娘娘保来人活下,
娘娘可叫黄蜡插。
26. 娘娘保的平安好,
四路的人都往庙里跑。
27. 娘娘可来可看下,
我到子孙殿里我来下,
千人万人都来下,
叫把娘娘话听下。
14. 黄色い蠟燭を供え、お香を焚くと、
(女神様が) 南天門⁽⁶⁾から下りてくる。
15. 下りてくると南天門が開く、
千人万人の衆生を守っている。
16. 女神様を代表して心のいい人のために歌う、
弟子の私は心が辛い。
17. 弟子の私は心が悲しんでいる、
(女神様) 後程ゆっくり調べてくださいますか。
18. 私はずっとあのことを気にかけている、
女神様、あのことをもう一度調べてくれるよう
にお願いします。
19. (女神様) 南天門のスタッフに聞いたらわか
ると思う、
私は任された任務をちゃんと果たしたよ、
女神様はお金をいい人たちに平均に割り当てる、
女神様が守っていれば安全だ。
20. 私は女神様の使者として天下をめぐり歩く、
雲の中で女神様のことが気がかりだ、
大通りが安全だ、
全ての作物が無事収穫された。
21. 作物が収穫されて人々は食べ物に不自由し
ない、
人々は黄色い蠟燭を持ってきてお香を焚いて
(神様に感謝する)。
22. 神様は衆生を守っている、
衆生はあらゆるものを神様に捧げる。
23. 女神様に捧げた蠟燭がきれいに見える、
あらゆる作物の育ちを守る。
24. 牡丹は善人の家の門を飾る、
善人の平安を守る。
25. 女神様のおかげでよく生きられる、
(女神様との約束を忘れないように) 黄色い
蠟燭を供える。
26. 女神様はよく守ってくれるから、
あちらこちらから人々は社にお参りに来る。
27. 女神様ご覧の通り、
私は子孫殿に来ている、
千人万人も来ている、
みんな女神様の言うことを聞く。

28. 菩萨娘娘大佛家,
画画庙堂坐一挂。
29. 带上弟子花儿唱,
画画庙堂大家浪。
30. 黄蜡架在地下放,
长香插在天上降,
神仙一挂下凡了。
31. 四路八乡的弟子都来了,
把老小们的弟子保平安。
32. 娘娘宝瓶抱得大,
叫弟子们把重孙抱一挂。
33. 砂石河滩大石头,
我把我的名字说下,
我是小卧龙的李秀英。
34. 娘娘不喘他的话,
我把我的话儿喘一挂。
35. 娘娘占我弟子十几年,
我落神是属猪的娃么那一年,
属猪的娃么几岁我几年,
娘娘的功臣阿么办。
36. 儿子拉大女儿拉大,
正把钱财挣来下。
28. 女神様はすごい神様だ、
絵⁽⁷⁾が画かれている堂内に座っている。
29. 弟子を引き連れて花児を歌う、
絵が画かれている神廟の中は人で一杯だ。
30. (台の上に供えきれない) 黄色い蠟燭が台の
下にもある、長い線香の煙がゆらゆらと上か
ら漂ってくる、神様が下界に下りてくる。
31. あちこちから弟子がお参りに来ている、
老若男女の弟子たちの平安を守る。
32. 女神様は大きい浄水瓶を持っている、
弟子たちが曾孫を抱いて可愛がるように。
33. 砂石河原の大きい石⁽⁸⁾、
私の名前を言っておく、
私は小队龍⁽⁹⁾から来た李秀英⁽¹⁰⁾だ。
34. 女神様はうちの主人を相手にしない、
私自身のことを教えてあげよう。
35. 女神様に使者として選ばれて十数年が経った、
女神様の使者になったのは亥年の子が生まれ
たあの年だった、
女神様の使者という勤務年数は亥年生まれ
の我が子の年齢と同じだ⁽¹¹⁾、
女神様の功労者である私はこれからどうする。
36. 息子も娘も苦勞して大きくした、
今はお金を稼いでいる

「神花儿」A〔注〕

- (1) 女神様は、子孫殿の女神を指す。お墨付きとは、より上位の神または人間の権力者から認められていること。
- (2) 水白楊は、楊の一種で植物名。
- (3) 苳藍も植物名。カラシナのような植物だという。
- (4) 「老同志」と同じ意味。呼び掛けた相手が自分より年長者なので「老」を付けた。
- (5) 途中から現われた女性は最初の聯だけ河州花儿の節で歌った。
- (6) 霊山会は、岷県民間信仰の組織。また宗教的集まりにおいて経典を読誦する信者グループのこと。(岷県民間信仰的专有名词, 既指民间信仰的信众组织, 也指宗教聚会时叙说宗教经典的信众群体。)
- (7) 恥ずかしい意。
- (8) 荷馬車を泊める宿の名前。
- (9) 神様や先祖に供えるのに使う黄色い紙。
- (10) 私はこの場を重視しているので綺麗な服を着ているが貴方は歌の掛け合いをしてくれない、だからこらしめてやろうか、という意味。
- (11) 「打脸」は神像・仏像の顔を洗い化粧直しをする儀式。
- (12) 当帰を薄切りして、貫いて糸に通すこと。当帰を加工するという意味。

神花儿B〔注〕

- (1) 女神の名は子孫娘々(また送子娘々ともいう)。道教的な神で、仏教の「菩薩」ではない。写真D参照。
- (2) 牛、羊の乳を煮詰めて取った油で作られた蠟燭で、作るのに手間がかかる。神様に供える高級な蠟燭。
- (3) 神仏は瑞雲に乗って移動することからいう。
- (4) 水と関係が深い岷県の神々は、それぞれ聖水を入れる瓶を所有している。
- (5) 柳の枝を持った楊柳観音はまた花瓶を持った姿としても知られる。その観音菩薩にちなんで岷県の神々の巡行でも柳の枝で水を撒く。
- (6) 南天門は、天にある想像上の門。
- (7) 堂内の壁画のこと。
- (8) 33以下は、32を歌ったあと一息ついたので、調査者の戚曉萍が歌い手に質問したとき、自分の素性を歌で答えたものである。
- (9) 岷県の地名。
- (10) 調査者戚曉萍の質問に答えて歌で名乗ったもの。歌の内容に個人情報があるので本名を付せ仮名にしてある。自分の夫に関する質問には答えたくなかったようで、その気持ちは「娘娘不喘他的话」にあらわれている。夫のことではなく自分自身について教えてあげよう(我把我的话儿喘一挂)といって、以下のことを歌った。
- (11) これに相当する亥年は1983年、1995年であり、歌い手が50歳であること、また35の歌詞に「女神様に使者として選ばれて十数年が経った」とあることから、1995年を指している。子どもの年齢は16歳ということになる。